



題字は、明治 39 年 10 月 1 日陸軍大臣寺内正毅から外務大臣林董宛に提出した文書（外交史料館所蔵）より抜粋。
 紋様は、尾形光琳：『八橋蒔絵硯箱』東京国立博物館所蔵より。

目次

- 通常総会 & 「海堡シンポジウム」
開催のご案内
- 東京湾第三海堡遺構保存連絡会議の発足
- 東京湾海堡ファンクラブ見学会報告
横須賀「軍港めぐり」 & ギャルニ公園散策
野辺 靖二

参加費 無料

総会資料は、後日別途郵送いたします。

東京湾第三海堡遺構保存連絡会議の発足

幹事 高橋悦子

第三海堡の遺構の一部が追浜展示場で国土交通省東京湾口航路事務所にて一般に公開されています。(当ファンクラブでは、2003 年 2004 年 2005 年に見学会で訪れました。) 2007 年度の撤去工事終了に伴い、追浜展示場で展示されている遺構を海中に沈めるとの話しを聞き、これらの遺構を日本の近代化遺産として保存する活動をおこなうため、「東京湾第三海堡遺構保存連絡会議」が関東学院大学教授・昌子住江会長のもとに発足されました。当ファンクラブは、「東京湾第三海堡遺構保存連絡会議」の趣旨に賛同し、協力することにいたしました。

2007 年 3 月 1 日現在、東京湾第三海堡遺構保存連絡会議に賛同している団体は、下記の団体です。

(順不同)

- 追浜自治会連絡協議会 会長 澄川貞介
- 追浜観光協会 会長 大村雅己
- 協同組合追浜商盛会 理事長 福島仁
- 追浜工業会 会長 片平總太
- 横須賀の文化遺産を考える会 会長 長浜つぐお
- NPO みなとサポート 理事長 古土井光昭
- 東京湾海堡ファンクラブ 会長 小坂一夫
- 東京湾学会 会長 沼田武
- 東京湾学講座富津藩の会 会長 川名興

**通常総会 & 「海堡シンポジウム」
開催のご案内**

下記により「東京湾海堡ファンクラブ通常総会」と「海堡シンポジウム」を開催いたします。会員以外の方の参加も歓迎いたします。皆さまお誘い合わせのうえ、ご参加ください。

- 日 時 2007 年 6 月 23 日 (土) 13:30~15:40
- 会 場 富津公民館 富津市新井 9 3 2 - 3 4
木更津駅 (西口) から「富津公園行き」バス 4 0 分、あるいは、青堀駅から「富津公園行き」バス 10 分、バス停「新井」下車徒歩 3 分

◆プログラム◆

- 13:00 受付開始
- 13:30~14:00 通常総会
(14:00~14:10 休憩)
- 14:10~15:10 海堡シンポジウム
「海堡の建造技術について (仮題)」
講師 蓮見隆 監事
- 15:10~15:40 質疑応答
- 15:40 閉会挨拶
- 15:45 閉会

主催 東京湾海堡ファンクラブ

■東京湾第三海堡遺構保存連絡会議のシンポジウムが、7 月 28 日 (土) 13:00~16:00、追浜文化センター 3 階で開催されます。詳細は、後日お知らせいたします。

東京湾海堡ファンクラブ見学会報告 横須賀「軍港めぐり」&ヴェルニー公園散策

東京湾海堡ファンクラブ会員 野辺 靖二

2006年8月27日(日)題記の見学会が行われ、12時30分三笠公園に集合、会員21名が参加した。北東の風・天気曇り・気温30度、少々蒸す感じ。乗って1時間、歩いて登って見回して2時間。全行程3時間の1日であった。行程は、事務局作成の資料に沿い、16時全員無事散会した。

横須賀港と歩いた周辺を写真とその説明で報告と致します。

1. 横須賀港軍港めぐり

「横須賀港軍港めぐり」は、4月末から5月のGWシーズンにかけて・夏休みシーズン(今回8月26日・27日)・秋(今年は11月4・5日)の年3回、猿島航路運航の観光船会社「トライアングル」が米軍・自衛隊の了承を得て運航しているもの。この日は三笠棧橋を「フレンドシップ1」に乗船、東京からの「はとバス」御一行様共々定員いっぱいでの船出。米海軍施設・基地沖・新井堀割水路を通り長浦港を経て、吾妻島沖で遙か第一海堡・第二海堡を望み約1時間、三笠棧橋へ戻るものでした。

横須賀港本港では、今注目の米海軍ミサイル駆逐艦「マスティン」、ミサイル巡洋艦「チャンセラーズビル」、改修中のミサイル駆逐艦「カーチスウィルバー」、海上自衛隊のミサイル艦「はたかぜ」やイージス艦「こんごう」は見られなかったものの、他の護衛艦・潜水艦・掃海艇・支援艦等が多数停泊。なかでも砕氷艦「しらせ」が一際目をひいた。



大正一昭和を通じ下町中心地の港だった。魚の水揚げのほか、千葉の富津・大貫との間に定期航路が設けられて、房総の農産物・海産物を積んだ運搬船が毎日出入りしていた。1971年に埋め立てられた。

三笠公園通りには、噴水やセララギ、モニュメントとして日本丸一世のメインマスト(実船の1/3)を中心に配しているほか、ブロンズ像・記念碑等緑豊かな遊歩道となっている。

写真一 三笠公園通り



三笠公園入り口。突き当たり右手に棧橋、「猿島定期航路」と今回の「横須賀港めぐり不定期航路」の発着所がある。左手にはいと記念艦「三笠」・野外ステージ・團伊久磨作曲の組曲「横須賀」の碑・噴水池・花壇や芝生の広場で、面積35561㎡。都市公園100選に選ばれている。七色の水を噴き出す音楽噴水は故障で見ることは出来なかった。

写真一 三笠公園



記念艦「三笠」の復興に尽力した一人、米海軍大平洋艦隊司令長官ニミッツ元帥(1885-1966)がいる、1905年アナポリス海軍兵学校を卒業し、アジア艦隊旗艦「オハイオ」に配属され、来日。皇居での「日露戦争凱旋記念園遊会」に他の5人の士官候補生とともに出席、日本海海戦の英雄東郷元帥と言葉を交わして大いに感激した。1934年東郷元帥の国葬には巡洋艦「オーガスタ」艦長として儀仗兵を指揮して、尊敬する東郷元帥の棺を見送った。1945年には米艦隊「ミズリー号」上での降伏文書調印式に際し、「三笠」を訪れたニミッツは尊敬する東郷元帥座乗艦の荒廃に慨嘆し、海兵隊に命じて歩哨を立てさせた。その後「三笠」がダンスホールなどに使用されていることを知り、1958年文藝春秋2月号に投稿し「三笠」保存を訴え、原稿料2万円をそっくり三笠保存会に寄付した。また、戦災にあった東郷神社(東京都渋谷区神宮前1-5-3)の再建復興にも10万円を寄付している(『汐留』昔話の会第三巻第41回講座資料20p)。記念艦「三笠」では、毎年5月27日の「海の日」に盛大な式典が行われている。

写真一 記念艦「三笠」と東郷元帥銅像



記念艦「三笠」の舳先についている菊の御紋章は、海軍規則に依って戦闘艦つまり戦艦・巡洋艦・航空母艦・潜水母艦・敷設艦・海防艦・砲艦・練習戦艦・練習巡洋艦等のみ。駆逐艦・潜水艦・水雷艇・掃海艇・特務艇等は軍艦に不非。依って、菊の御紋章はついていない。

猿島は、かつて要塞の地で一般の人々は立ち入り禁止であった。戦後一時、京浜急行ほか1社が大蔵省から一部借り受けるかたちで渡航・海水浴場を開いていたが、禁止閉鎖された。1995年横須賀市が国から管理委託を受けてから一般解放され、航路も再開された。四季に応じた憩いの場所となっている。

写真-4 記念艦「三笠」の艦首と猿島



記念艦「三笠」の船尾は司令長官公室で、スタンウオーク（手すりの箇所）が見られる。

写真-5 記念艦「三笠」の船尾



公園の中ほどにあり、ジャズ・ロックコンサートが開かれるのか、それらしき若者達がギターやボンゴなどを抱えて、三々五々集まっていた。

写真-6 三笠公園野外ステージ



接岸の軍港めぐりの「シーフレンド1号」。バックは軍艦旗を掲揚した「三笠」。軍艦旗は菊の御紋章16弁になぞらえて、旭光16本の軍艦旗が制定され、日本海軍の象徴となった。近くに、行進曲「軍艦」の碑がある。

写真-8 三笠棧橋



写真右「マステイン」(9600t。2006年8月配備)
左ミサイルフリゲート艦(4100t×138.1m×13.7m。新鋭艦と交代離日予定)

写真-9 米海軍ミサイル艦



ミサイル巡洋艦「チャンセラーズ」(9516t×172.8m×16.8m。イージス艦)

写真-10 米海軍ミサイル艦



- ・DD107 護衛艦「いかづち」(4550t×151m×17.4m×5.2m×30kt)
- ・AOE423 補給艦「ときわ」(8150t×167m×22m×15.9m×22kt)
- ・AGB5002 砕氷艦「しらせ」(11600t×134m×28m×14.5m×19kt)

前日の8月26日(土)海上自衛隊横須賀基地一般開放ヨコスカサマーフェスタ2006で護衛艦艦内見学や体験航海・潜水艦特別公開などが行われた。

写真-11 海上自衛隊護衛艦と補給艦と砕氷艦「しらせ」



新井堀割は、深さは干潮時でも9m以上、巾は海底で約27m。駆逐艦でも航行出来るという。明治22年に開通、23年に完成した。大正

12年9月1日の関東大震災の時、吾妻山（写真右側の山）にあった幾つかの燃料タンクが炎上して、黒煙が1週間以上も横須賀の空を覆い、昼間も真っ暗で、太陽が闇のなかに赤く見えたという。

写真-12 新井堀割り水路



艦体に錆が見えるのは、除籍の潜水艦か。

写真-13 長浦港に繋留の潜水艦



船内ガイドがあり、シャッターを切るのもムリだった。

写真-14 第一海堡と第二海堡



三笠公園通りの「めだかの学校」童謡碑

何故、小田原の「めだかの学校」が横須賀に？ 何でかフラメンコでした！それは、作詞者茶木滋が横須賀市の生まれという御縁での建立とか。中田喜直の作曲で、1985年秋NHK「明るい歌」で発表された。

写真-15 左は講師の仲野正美幹事



写真-16 三笠公園通りから国道16号線へ出て、米軍基地正門前まで

2. ドブ板通り

「ドブ板通り」、正式には横須賀市本町商店街。下水・ドブ板などから想像するといいい感じがしないでも無いが、かつては、旧海軍関係の店や、御用商人の街として栄えた街。終戦直後から朝鮮戦争時は正にアメリカそのもの、アメリカ文化の花が咲き誇っていたという。「闇洋もくで学資を稼いだ」先輩の話、「深夜酔っぱらって暴れる米兵」「全国から集まってくる女、また散っていった女達の話」、閉めたシャッターを叩いて「飲ませろ」と騒ぐ兵隊。「シャッターをデコボコにされて何度取り替えたことか」という話。「深夜の喧噪が収まる夜明け近くなってもドラム缶の札を数えていた」話etc (旧聞ながら、かつてお世話になった元町内会長岡田幸夫さんの話を思い出す)。

1980年からドブ板通りにある「延命地藏尊」(今回通過)の縁日に年4回開かれているアメリカ方式を取り入れた「ドブイタバザール」が、市内外を問わず・米軍人家族などにも人気を集めている。夏には、ヤング層で埋め尽くされる通りでの「ジャズやロックのコンサート」、路上には横須賀ゆかりの50人余の手形レリーフが埋め込まれ、店は少なくなったとはいうものの色鮮やかな左右のスカジャンの店などブラリ歩くだけでも飽きさせない。



ドブ板通りの入り口であり、出口でもある両端にありました。

写真-17 ドブ板通りの銘板



写真-18 ドブ板通りを行く皆さん



写真-19 ドブ板通りの店先と店内の様子



ゆかりの有名人手形フレームは50枚余。「2006年10月後半に最新のレリーフ・マップを出します」(商店街事務局)ということでした。写真のドラムのジョージ川口はじめ前田武彦・安田伸・福原彰・原信夫といったEMクラブ全盛時代の常連ジャズメン、作曲家團伊久磨・柔道の猪熊功・サッカーの奥寺康彦・歌手の雪村いずみ・渡辺真知子・宇崎竜童・阿木燿子・錦織健・森下洋子等多士済々。

写真-20 ドブ板通りの横須賀ゆかりの有名人手形レリーフ

3. 向山行在所跡(むこうやまあんざいしょ)

「向山行在所跡」は、明治天皇が横須賀行幸の際、宿泊されたり・休憩されたりしたところ。明治天皇は、横須賀に16回行幸のうち2回 行在所に御駐泊、1回は明治天皇昭憲皇太后両陛下と御駐泊、1回は御休憩被遊ている。「建物は既に取壊されて存せざるも、その跡地は市有地(85坪3合3勺)として保存せられ、周囲方四間玉垣をめぐらし、聖蹟の碑を建て、域内には清浄なる砂利を敷きて、神聖を保たしめたり、猶最近、接壤地上方の平地に、「明治天皇御駐蹕(ごちゅうひつ)と刻せる花崗岩の大記念碑を建立せり」(「汐留」昔話の会資料集第一巻第6回講座資料 8p「文部省『明治天皇聖蹟』昭和10年刊より)。戦前この地は八幡山と呼ばれ地域の人々にと

っては神聖なる場所だった。八幡社が祀られ、海軍工廠の守神としたためという。



明治天皇はどうやって登ったのか。緩やかな坂だったのか、今に残る階段だったのか知りたいところ。

写真-21 明治天皇横須賀行在所への登り口



今は、諏訪公園に取り込まれている。

写真-22 「明治天皇横須賀行在所跡」の碑



写真-23 公園の裏山をさらに登って「明治天皇御駐蹕碑」へ



浦賀西叶神社(横須賀市西浦賀町)には、明治天皇が、明治14年5月18日観音崎砲台建設の様子を御覧になられた際、当時西叶神社の場所にあった浦賀西岸学校の2階の臺室に御休憩されたのを記念して、社務所の前に「明治天皇駐蹕之碑」が建てられている。神社由

来では『駐輦』（ちゅうれん）であるが、建立されている碑に刻まれている『れん』と読ませる文字は『馬』辺に駐蹕の右辺『畢』（ひつ）つまり『馬畢』となっているように見える。後日叶神社にお伺いして宮司さんに聞いてみたが、結局宮司さんも「よく分からない」。よく尋ねられるが、神社由来の『駐輦』を正として、「碑に刻された文字がよく分からないので、どう読むかも分からない」「答えられない」と。

東京から船で浦賀へ上陸した明治天皇は、観音崎までの往復は馬であったという。だから「馬」の「畢」（ひつ）としたのか。横須賀の行在所への「蹕」というのは『輿』のような乗り物だったのか、写真28. という「知りたいところ」のこだわり。

写真-24 明治天皇御駐蹕碑



左手には、2005年11月園内にフランス式をうたうコルセールカフェ レストランがオープンした。お薦めランチ2000エン！

写真-26 右手に横須賀本港を見ながら公園を歩く

4. 旧海軍下士官兵集会所跡（通称 EM クラブ）

「旧海軍下士官兵集会所跡」は、一般的には「EMクラブ」の名で親しまれていた戦後暫くの間、連日ジャズ演奏会などが開かれ、有名な日本のジャズバンドや歌手のメッカといわれた。昭和12年横須賀の馬淵聾啞学校を訪れたヘレン・ケラー女史は、このEMクラブで講演している。

施設の老朽化で米軍基地内に新築移転、跡地は汐入駅前地区再開発事業で、京浜急行汐入駅前の整備、東洋で五指にはいるといわれる規模と設備を備えた「よこすか芸術劇場」、「ホテルトリニティ横須賀」となっている。



バラ園は、5～6月の時期が終わり、現在養生期間中。次期開花期は10～11月。年2回ボランティアによる手入れがなされている。手入れ中のバラは「フランスで育成された品種で、『ラ・セビリアーナ』といい、春から秋まで絶えず花が咲き続ける」という話でした。

写真-27 バラ園を手入れするボランティアの皆さん

5. ヴェルニー公園（旧臨海公園）

「ヴェルニー公園」は、平成12年2月旧臨海公園が整備されたのに伴い、ヴェルニー公園と改称。ヴェルニー・小栗上野介の功績を顕彰するため、開港碑とあわせて二人の胸像の設置。公園の園路や花壇は、フランス式の庭園を模して造られている。植えられている「バラ」は大凡2000本（今回は残念乍ら花期がおわり）。フランスで育成された品種を中心に植えられている。「逸見波止場衛門」（市文化資産指定）、「海軍の碑」「軍艦長門碑」「軍艦沖島碑」「軍艦山城碑」「正岡子規の句碑」（今回通過）が建てられている。2006年5月25日（木）仏海軍フリゲート艦「プレリアル」の艦長ほか女性士官一人を含む幹部による献花式に遭遇。「アレクシス・ラテイ艦長は『今回の寄港も偉大な先人たちの精神に基づくものだ』と寄港歓迎式典でその目的を語った」（2006/05/23朝日新聞）。仏艦艇の来日は1961年以来続いており、今年で47回目とか。改めて先人達の偉大さと敬いの心を痛感した。たまたまの通りすがりでカメラ持ち合わせ無きが惜しまれた。



写真-28 小栗上野介とヴェルニー胸像と開港碑を後に



写真-25 明治4年（1871）～17年（1884）に造られたドックを望み、仲野先生のお話を聞く



「逸見波止場衛門」は、現在市民文化遺産となっている。

写真-29 左手に逸見波止場衛門が見える



写真-30 横須賀駅から横須賀海軍工廠までの引き込み線の跡。右手には国道16号線が走る。



左から「軍艦の碑」「軍艦山城之碑」(34700t。横須賀建造)、「国威顕彰」(周りの銘板が取りはずされていて詳細不明)、「軍艦長門碑」(32720t。旧連合艦隊旗艦。呉建造)、「軍艦沖島の碑」(旧海軍最大の機械水雷敷設艦。4470t。播磨建造)と「子規の句碑」がある。正岡子規は東大学生時代の1888年8月、夏休みを利用して、友人と共に汽船で浦賀に着き、横須賀・鎌倉に遊んだという。

「横須賀や 只帆楹の 冬木立」 子規。
写真-31 公園内の碑



左からダイエーショップパース・よこすか芸術劇場・汐入2丁目開発ビル・白い高層の建物は「ホテルトリニティ横須賀」。

写真-32 ヴェルニー公園から汐入方面を望む



これは参考に入れました。2004年4月18日(木)劇場主催の「バックステージツアー」に参加した折、断りの上写したもので、横須賀市自慢の劇場。

写真-33 よこすか芸術劇場の内部(ステージから写す)

6. ヴェルニー記念館

「ヴェルニー記念館」は、横須賀市立自然・人文博物館の分館として2002年5月に開設。ヴェルニーの業績や当時使われていた機械や模型の展示、関連図書やビデオで製鉄所の歴史を学ぶことができる。特に、横須賀製鉄所(後横須賀造船所→横須賀海軍工廠。戦後米海軍横須賀基地・海上自衛隊横須賀基地)で130年間稼働していたという「スチームハンマー」(国指定重要文化財)2基の実物展示は圧巻。記念館川井先生による懇切丁寧なお話を聞くことができた。



ヴェルニー記念館 記念スタンプ



写真-34 最後のコース ヴェルニー記念館へ



写真-35 展示されている「スチームハンマー」のモデルを使った記念館川井先生の説明



写真-36 記念館川井先生との質疑応答



スチームハンマー3tのハンマー部分。
 右手のかすかに見える艦船は米海軍ミサイル巡洋艦「チャセラーズビル」(9516t。イージス艦。写真10参照)。
 写真-37 展示中の実物「スチームハンマー」のハンマー



0.5Tonハンマーのアーム下部の刻印。
 オランダ語の読み方

《 イントルナテイオナーレ
 ケレジット エン
 ハントルフエギング
 ロッテルダム
 1865 》

オランダのロッテルダムに在るイントルナテイオナーレ ケレジット エン ハントルフエギング社が1865年に製造したもの(横須賀博物館研究報告書人文科学第46号「スチームハンマー調査」2002年3月)。オランダ語読みが分かったのは、今回の収穫のひとつでした。感謝!

写真-38 「スチームハンマー」の刻印

7. JR横須賀駅

「JR横須賀駅」は、ヴェルニー記念館のすぐ側に位置し、1889年(明治22年)現在の横須賀線が開通し、横須賀駅が誕生した。軍事上の必要から敷設されることになったものの、当時海軍は鎮守府を始め諸施設を拡大、陸軍は観音崎や第一海堡などの東京湾要塞を整備中だった。工事費は建設中の東海道線(現在の御殿場線)の予算から約40万円が流用された。その為、御殿場線は複線化が叶わなかったといわれている。当時のレールは、ホームの上屋の支柱に使われ、駅舎寄りの海側辺りでアメリカ「イリノイスチール 1898 IRJ」が、その先大船寄りの海側(山側でもかすかにみられる)では「ドイツ ユニオン D-1885 NTK」の刻印が読み取れる。かつては市の玄関駅として、また軍事上でも重要な駅だったという。新兵さんは市内を歩くにも乗降に際しても、周りが上官ばかりで上げた右手、挙手のしっぱなしで、寝てまでも敬礼していたとか。



かつては横須賀の玄関口であったが、今では京浜急行横須賀中央駅にその座を奪われている。因みにJR横須賀駅の1日当たりの乗降客12318人、京浜急行横須賀中央駅で7万人となっている。尚、駅舎は1940年に建て替えられた2代目で「階段のない平坦な駅」として「鉄道の日 駅100選」に選ばれている。

写真-39 JR横須賀駅



見学会解散のあとヴェルニー公園で出会ったもので、横須賀ならではの光景。歌っている人は、見学会の途中で見かけたような。ほかの1組が準備中だった。

写真-40 STOP! 「原子力空母の母港」を訴えるグループ

参考図書

- * 「汐留」昔話の会資料集第一巻～第七巻 石井昭著 2000.2～2006.7
- * よこすか中央文化めぐり(中央地域)改訂版 中央地域文化振興懇話会 平成10年
- * 横須賀自然・人文博物館研究報告人文科学第46号「スチームハンマー調査」2002
- * 辞典類は省略

そのほか、報告書をまとめるに当たり、関連パンフレット・新聞切抜きのほかヴェルニー公園ボランティア・横須賀市公園管理課・コルセール カフェ レストラン・浦賀西叶神社・本町商店街事務局・ベルニー記念館・(有)トライアングル・JR横須賀駅・京浜急行横須賀中央駅の方による話等々御協力を得ましたことを記し、厚く御礼申し上げます。

事務局 〒110-0015 台東区東上野 2-7-6 東上野 T.Iビル
 (株) 地域開発研究所内 東京湾海堡ファンクラブ事務局
 事務局長：島崎武雄 会計：高橋悦子
 電話 03-3831-2917 FAX 03-3831-6259
 HomePage：http://www.babu.jp/~kaihoufc/
 E-mail：kaihoufc@babu.jp

「海堡」 *kaihou* No.16

—東京湾海堡ファンクラブニュース— 第16号
 東京湾海堡ファンクラブ 2007年6月1日発行